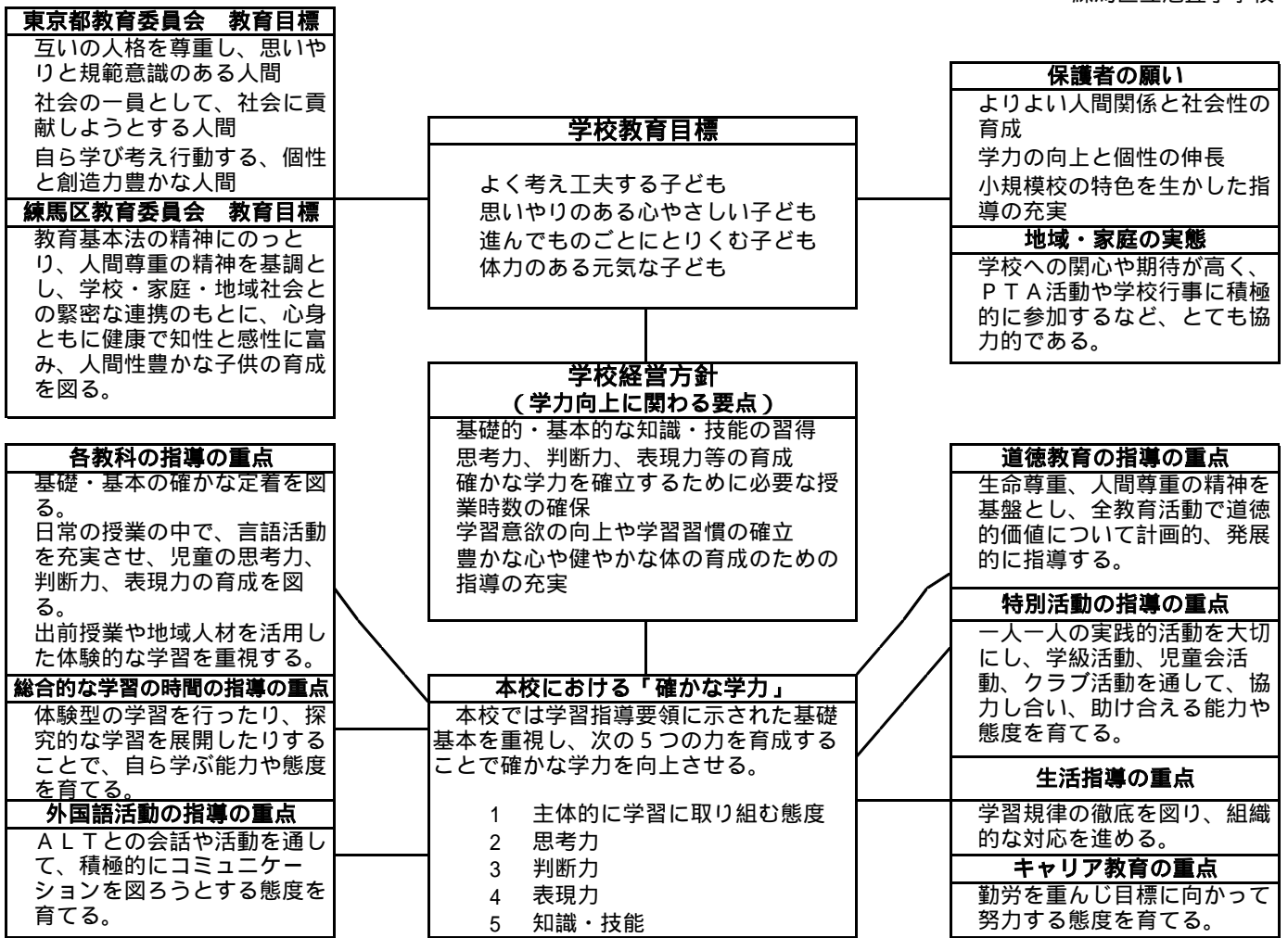


平成30年度 学力向上を図るための全体計画

練馬区立旭丘小学校



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の視点
年間指導計画や課題改善カリキュラムに基づいた計画的な指導を行い、児童に確かな学力を付けさせることのできる指導を展開する。 算数の授業では、習熟度別少人数指導を通して、個に応じた指導の工夫・改善に努める。 複数学年での授業や、特別支援学級との交流学习を行い、児童が豊かな学習経験ができるようにする。	基礎・基本の定着をより一層図るため、国語・算数の授業時数を標準時数よりも多く設定する。 様々な教科で体験学習や交流学習を編成することを通して、問題解決的な学習を展開させる。 土曜授業や放課後の学力補充教室を実施することにより、教育活動を充実するとともに、授業時数を確保し日頃の学習活動を充実する。	研究主題「グローバル社会を生きるためのコミュニケーションの力を身に付ける児童の育成～外国語活動を通して～」を設定する。 外国語（英語）による、コミュニケーション活動の意義や楽しさを体験的に学ばせる。	授業の中で指導と評価の一体化を図り、基礎・基本の定着を図る。 国や都の学力調査、学校独自の算数基礎基本調査の結果を分析して課題を把握し、授業改善推進プランに反映し、個々の教員の授業改善に生かす。	学校公開日や道徳授業地区公開講座、保護者会、個人面談などの充実を図り、保護者や地域の方々との相互理解をさらに深める。 保護者や学校評議員による学校関係者評価を実施し、その結果分析を行う。また、教員による評価と重ね合わせて、授業改善に努める。	学習指導要領に準拠しつつ、義務教育9年間を通じて、知徳体の調和の取れた児童生徒を育成するために、小中一貫教育実践校として、学力の向上や文化・芸術教育の推進等において旭丘中学校、小竹小学校と三校合同研究を実施し、小中一貫教育の一層の充実を図る。

検証方法
学力状況調査および、単元ごとの到達度テストを活用 発言記録、児童による自己評価による検証 管理職による授業観察